見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

December 2023 vol.116

◆ 津波之碑（三浦津波碑）

所在地：三重県北牟婁郡紀北町三浦
交　通：JR 紀勢本線「三野瀬」駅 南 約 500m

三重県の志摩半島や熊野灘沿岸（三重県大王崎から和歌山県潮岬）は、地形的に津波の影響を受けやすく、明応 7(1498) 年の明応地震では志摩で 10 ～ 15m、宝永 4(1707) 年の宝永地震では伊勢の大湊で 8 ～ 15m、嘉永 7(1854) 年の安政地震では志摩で 6 ～ 18m の津波が襲来するなど、南海トラフで地震が発生するたびに、繰り返し津波が襲い、大きな被害が発生してきました。

昭和 19(1944) 年 12 月 7 日に発生した昭和東南海地震も、志摩半島や熊野灘沿岸に大きな津波が襲った地震のひとつです。昭和東南海地震による津波は、熊野灘沿岸には 10 ～ 20 分で到達し、その高さは、最も高かった尾鷲では 8 ～ 10m に上り、熊野灘沿岸では 5 ～ 8m 程度の津波が到達しました。三重県の被害は、津波によるものが大半で、中でも現在の北牟婁郡は県内最大の津波被害地域となり、錦町（現・大紀町）では 64 名、尾鷲町（現・尾鷲市）では 96 名が亡くなるなど、郡全体で 209 名の死者が発生したとする記録もあります。

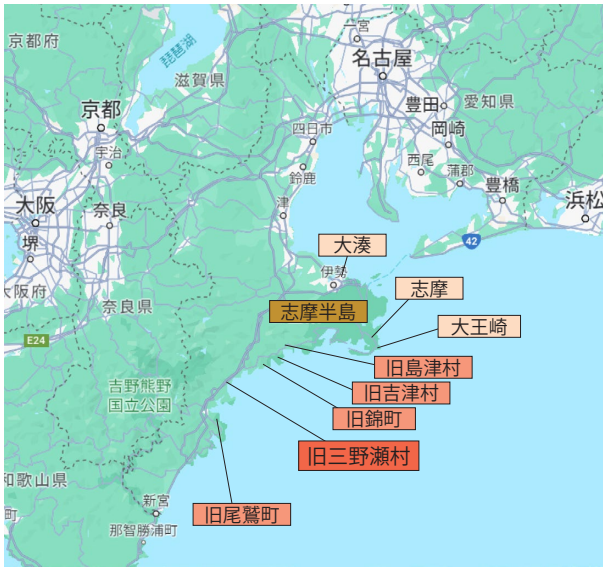
現在の紀北町の中心、紀伊長島から少し西にあった三野瀬村も津波が襲った場所のひとつで、村の住家の被害率は 31% に上り、三重県では錦町の 62%、吉津村（現・南伊勢町）の 55%、島津村（現・南伊勢町）の 45% に次ぐ、4 番目の高さとなっています。三野瀬村の津波の高さは 3 ～ 5m 程度とされていますが、25 戸が全壊、56 戸が流失し、3 名の尊い命が失われました。

旧三野瀬村の三浦漁港の近く、三浦漁民センター横の堤防脇には、紀北町で唯一の昭和東南海地震の慰霊碑、津波之碑があります。津波之碑は、昭和 28(1953) 年 7 月に、当時の区役員たちの努力により、後世に災害の実相を残すことを願って建立されたもので、「昭和十九年十二月七日午後一時過き突如大地震あり十数分後津波襲来し瞬時にして鉄道線路以南は泥海となり引波は忽ちの中に尊き人命二つを呑み人家六十有六を奪い耕地は悉く河原と化した」と被害の様子が記されるとともに、「古来より俗説に津波は百年目毎に来ると再びこの苦汁を子孫に嘗めさせるに忍びず区民の熱誠は遂に當局を動かし茲に不朽の防潮堤が建設されるに到った　依って之を誌し永く後世に残さんとする」として、津波は繰り返し発生すること、子孫のために防潮堤の建設に尽力したことが記されています。

昭和 61(1986) 年には、町の指定有形文化財に指定され、新たに三浦津波碑の標と解説が設けられました。解説文では、津波之碑について、「東南海大地震後すでに半世紀を過ぎた現在、天災に対する不断の心がまえを訴え続けている教訓の碑である。」とし、教訓が後世に伝わり、災害に備える気持ちが受け継がれることを期待しています。

津波之碑
国土地理院 HP より

中部災害アーカイブス「地震・大津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事（http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=50）もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 雁宿（かりやど）公園 (vol.8,2014.12)

所在地：半田市雁宿町

交　通：名鉄河和線「知多半田」駅 北西 約 800m

昭和 19(1944) 年に発生した東南海地震当時は戦争中であり、半田市内にあった中島飛行機は軍事工場として飛行機の生産を担い、各地から多数の学徒が集められていました。現在の市役所などが建つ敷地にあった山方工場では、紡績工場を転用して航空機工場としていたこと、地盤が悪い場所だったことなど、原因は様々ですが、建屋が壊滅的被害を受け、動員学徒 90 名余りが命を落としました。

市内にある雁宿公園には、この中島飛行機での悲劇で亡くなられた方の慰霊のための碑が 3 基残されています。

追憶之碑は、東南海地震で亡くなった学徒動員の生徒達を追悼するために、昭和 25 年の七回忌に集まった同級生達が募金運動をして建立したものです。裏面には半田中学・半田高女・半田商業と半田・乙川・亀崎・成岩の各国民学校の「震災殉難学徒」48 人の慰霊のため同期生一同が建設するという趣旨の文が刻まれています。

殉難学徒之碑は、東南海地震で亡くなった中島飛行機半田製作所の動員学徒 96 人と山二航空成岩工場で亡くなった 1 名を追悼した像で、昭和 34 年に完成しています。

半田・戦災犠牲者追悼平和祈念碑は、東南海地震の際の軍需工場での犠牲者、昭和 20 年 7 月の空襲による犠牲者、動員中の労災死亡者の合計 432 人を追悼したもので、戦時中の半田にゆかりのある動員体験者や市民の協力によって寄金がよせられ、建てられました。平成 7 年 7 月に完成しています。

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.11（https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html）をご覧ください。

★ 年末きいながしま港市

年末きいながしま港市は、県下有数の水揚高を誇る紀北町・紀伊長島港内の特設会場で毎年年末に開催されるイベントで、60 以上のブースが出店する、三重県最大級の食材市です。（2023 年は 12 月 23 日から 30 日まで）

天然のブリや伊勢エビ、活サザエや活アワビなどの鮮魚や貝類のほか、サンマの丸干や鮭ハラス、生節などの干物類も充実しています。会期中にはビンチョウマグロの解体ショーも予定され、無料のふるまいも行われるほか、買ったものをその場で焼いて食べることができる無料七輪の提供などもあります。普段はなかなか見ることのできない海上保安庁の巡視艇みえかぜの見学など、このほかにも見どころたくさんで、毎年、年末年始の準備のための買い物客で大いに賑わいます。

～鉄道で巡る～

紀北町は、三重県の亀山駅から和歌山県の和歌山市駅まで紀伊半島の海沿いを走る紀勢本線が通り、紀伊長島駅、三野瀬駅、船津駅、相賀駅の 4 駅があります。紀伊長島駅以降は、紀伊半島の海沿いを走り、熊野灘を望むことができます。

紀伊長島駅には、名古屋と新宮・紀伊勝浦を結ぶ、最新鋭の HC85 系車両の特急南紀も停車し、名古屋から 2 時間ほどで訪れることができます。

●ブレイクタイム●

♪ 銚子川

銚子川は紀北町の南部を流れる源流部の標高約 1,600m、全長約 17km の川で、風化した花崗岩や細かく砂状になった岩（真砂）が水をろ過するため、美しく青色がかった透明色となり、その様子は銚子川ブルーと名づけられています。源流は年間降水量が 5,000mm を超すこともある大台ヶ原で、豊富な水量が河口まで短距離かつ急傾斜な中を一気に流れていきます。支流には、奇岩巨岩が集まった魚飛渓と呼ばれる地点があり、夏になると多くの人々が訪れ、川遊びを満喫しています。

きほくのたび HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ（https://www.saitoseeing2020.jp/）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2023 年 12 月）